

第75次印旛地区教育研究集会  
道徳研究部 提案資料

自己を見つめ、互いに学び合い、  
よりよく生きようとする生徒の育成



八街市立八街北中学校

## 1. 研究主題

自己を見つめ、互いに学び合い、よりよく生きようとする生徒の育成

## 2. 研究主題の設定

### (1) 本校の学校教育目標の観点から

#### 【学校教育目標】

他を思いやる心を持ち、自ら考え行動する、たくましい生徒の育成

#### 【めざす学校像】

- 生徒一人一人が生き生きと活動する活気あふれた学校
- 生徒が期待をもって登校し、満足して下校できる学校
- 家庭や地域から信頼され、安心・安全な学校

#### 【めざす生徒像】

- 思考力や表現力を身につけ、自ら進んで学ぶ生徒
- 思いやりの気持ちを行動に表せる生徒  
「心をこめた挨拶」「心をこめた清掃」「心をこめた歌声」
- 何事にも挑戦し、互いに磨きあう生徒

中学校学習指導要領において、人間としてよりよく生きようとする人格的特性でもある道徳性の発達の出発点は、自分自身であると述べられている。中学生は様々な葛藤や経験の中で、自分の生き方を模索し始める重要な時期にあり、よりよく生きる上で大切なものは何か、自分はどのように生きるべきのかなど、答えが見つからない問いに悩むことが多くある。その中で生徒自身が自己を見つめ、他者との対話や関わりなどの学び合いを通してよりよく生きようとする道徳性を育むことができれば、学校教育目標である「他を思いやる心を持ち、自ら考え行動する、たくましい生徒の育成」の達成につながると考え、研究主題を設定した。

### (2) 生徒の実態から

本校は、1学年と2学年が各2学級、3学年が3学級、特別支援学級が4学級からなる全校生徒227名の小規模校である。生徒の多くは近隣の朝陽小学校の出身であり、いわゆる一小一中の学校にあたる。生徒たちは小学校を経て長い時間を共に過ごしてきたからこそ、互いを理解し、認め、協力し合うことができおり、素直で穏やかな人柄の生徒がとても多い。また、一小一中という特色を活かして学習面や生活面、学校行事などの様々な活動において小学校と中学校が連携し、生徒の個性を伸ばす小中連携教育に取り組んでいる。一方で、生徒たちは小学校で築かれた人間関係が大きく変化することなく中学校生活を送ることになるため、限られた環境の中で人間関係が広がらず、人との関わりを通じて習得する社会性が欠けてしまうことが懸念される。

道徳科の研究に先立って以下の調査を行った結果、道徳の時間を肯定的に捉え、自分の学びになると考えている生徒は全体的に多いことがわかった。また、自分の考えを持ち、友達の意見を聞いた上で考えを広げ深めることができている生徒も多い。しかし、自己肯定感をもつことができない生徒や自分の思いを伝えることが苦手な生徒が一定数いることが、調査結果や普段の生活態度からもわかる。そして、道徳の時間を肯定的に捉えて意欲的に参加する生徒は多くいるが、その学びを実生活の中で行動に移すことができていない生徒も多い。したがって、道徳の時間を通じて自分の考えを持ち、意見交換をして広がった見方・考え方を実生活につなげ、自分たちの手でよりよく生きようとする意欲を高めたい。

実態調査 令和6年5月 対象：2年生（計81名）	はい	どちらかとい うとはい	どちらかとい うといいえ	いいえ
①道徳の時間は好きですか。	26名	45名	12名	1名
②道徳の時間はためになると感じますか。	56名	25名	0名	0名
③道徳の時間に自分の考えをもつことができ ていますか。	43名	35名	2名	1名
④道徳の時間に友達の考えを聞いて、「はっ」と したり「なるほど」と思ったりしたことがあ りますか。	49名	26名	4名	2名
⑤自分にはよいところがあると思いますか。	27名	38名	15名	1名
⑥家族に自分の思いを伝えることができいま すか。	27名	35名	15名	4名
⑦友達に自分の思いを伝えることができいま すか。	35名	35名	11名	0名
⑧道徳の時間に学習したことを生活の中で行動 に移すことができていると思いますか。	25名	39名	14名	3名

### 3. 研究目標

道徳科の授業を要とし、学校の教育活動全体を通じて生徒が自分の考えもち、他者の考えを知ること  
で自分の見方や考え方を広げ、よりよく生きようとする態度を育てる。

### 4. 研究仮説

道徳の授業や教育活動全体を通じて、生徒が多様な感じ方や考え方に触れることのできる学び合  
いを多く取り入れることにより、多面的・多角的に自己の考えを深め、よりよく生きようとする実践的意  
欲を高めることができるだろう。

#### 〈具体的な手立て〉

##### ○道徳的学習の機会を設定

- ・指導者が学年全員に一斉授業を行う学年道徳
- ・指導者が全校生徒に一斉授業を行う全校道徳

##### ○道徳授業の工夫

- ・ペアや3～4人の少人数グループでの積極的な話し合い活動
- ・各学年の担当ローテーションによる授業
- ・クロームブックやモニターなど、ICTを活用した視覚的教材
- ・多面的・多角的に考えることのできる発問（基本発問、中心発問、補助発問）
- ・教材のねらいの確認（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲、道徳的態度）

##### ○その他

- ・職員会議での学習指導要領における内容項目の確認
- ・各学年会議での教材研究
- ・学習内容を視覚化した掲示物の作成

## 5. 研究の実践

### (1) 学年道徳

学年道徳とは、担当者が一つの教材を用いて学年全員に授業を行うものである。一か所に集まり全体で行うこともあれば、決められたグループごとに教室を分け、クロームブックのmeet機能を使用して授業に参加することもある。生徒たちは学級が異なる場合基本的に同じ教室で授業を受けることはないが、他学級の生徒ともコミュニケーションをとることができ、自分の考えを広げ深める機会となる。

#### 3 学年道徳 略案

##### 1 主題名

「命を守る」—困難な状況での判断について D(19) 生命の尊さ  
(教材名 道徳×防災「避難所での出来事」 出展「新しい道徳③」東京書籍)

##### 2 関連する内容項目 C(12) 社会参画、公共の精神

##### 3 ねらい

避難所での困難な状況でも守ろうとする命の大切さについて考え、連続性と有限性のある命の尊さを理解し、かけがえのない生命を尊重しようとする心情を基に道徳的判断力を育てる。

##### 4 生徒の実態

本校は年3～4回程、地震や火災を想定した避難訓練を実施している。また、昨年度から印旛地区教育委員会連絡協議会の指定を受け、学校全体で安全教育を充実させてきた。3学年は「公助」をテーマとして学習し、八街市の防災課の方を招いて避難所設営の体験、朝陽小学校との合同安全教育、防災倉庫など、防災に関する事前学習に多く取り組んできた。

##### 5 教材

本教材は、凍えるように寒い避難所で、息子の命を助けるためにとった父の行動が描かれている。避難所で泣きながら腹痛を訴える息子を助けるために、父はたまたま見つけた鍵が付いたままの車に息子を乗せて病院へと向かった。予断を許さない息子を前に、助けを得られずにいた父や、助けてほしいという頼みを断った避難者たちの判断に対して、生徒たちは共感や理解を示しつつも、その行動に至った判断や理由に対しての是非に葛藤させられるような教材である。

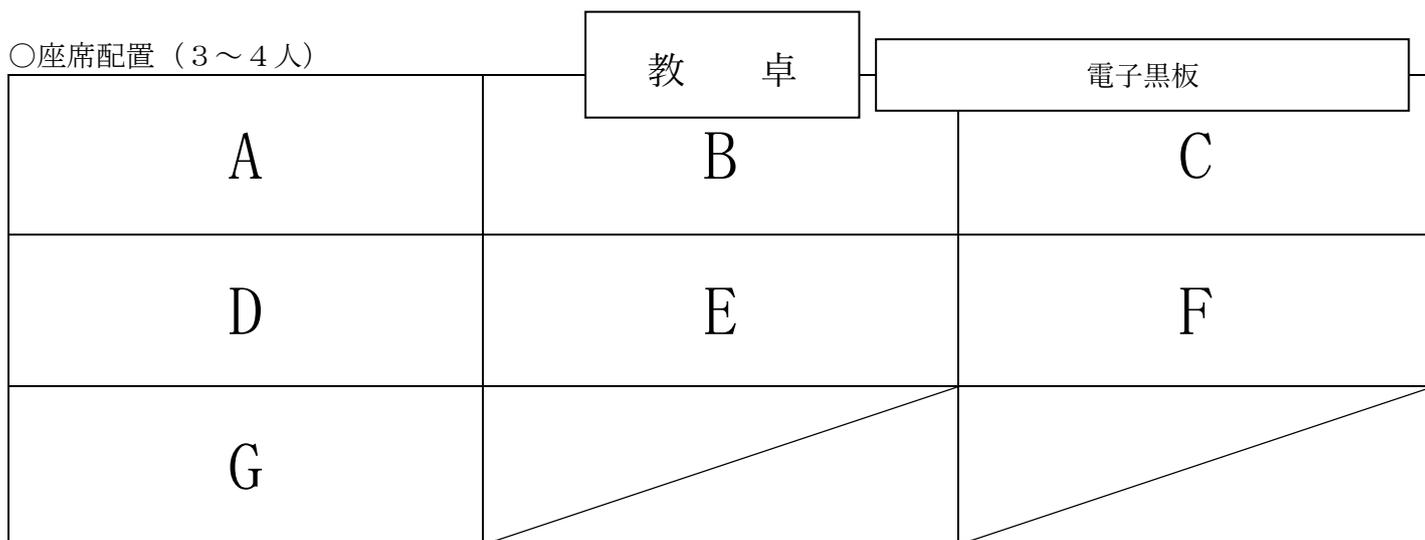
##### 6 事前準備

- ・当日の朝読書の時間に本文を読み、ワークシート(1)父の行為についてのみ記入する。
- ・当日の朝の会終了後、A～Uのくじを引いてグループ分けを行う。  
A～G(1組) H～N(2組) O～U(3組) 1グループ3～4人設定

時程	活動内容	支援 教師の動き
導入 5分	1 各クラスでワークシートを用いて今日の流れやキーワードの確認をする。	全体 ○○先生 1組 ○○先生 2組 ○○先生 3組 ○○先生
	2 本文を読み、場面絵を用いて内容の確認を行う。	記録 ○○先生
	3 くじを引いたグループごとに各教室へ移動する。	各教室担当は全
5分	4 ○父の行為は許されると思うか、許されないと思うか。 QRコードを読み取りデジタル心情円で自分の考えを示し、ワークシート(1)の意見をグループごとに発表する。	体指導者の補足 やグループの補助を行う。

25分	<p>5 ◎問いかけによる話し合いを通して、父の行為や周囲の人たちの対応について考える。 心情円を見せ合い、今日の話し合いキーワードを用いながら「許される側」と「許されない側」で意見交換を行う。</p> <p>意見交換により考えが変わった場合は、心情円を更新する。</p> <p>いくつかのグループは、グループで出た意見を発表する。</p> <p>6 ○最後の場面で父は何を思っていたのだろう。 話し合いを受けて考えたことを踏まえながら、自分を省みる父の心情を考える。 グループで発表したあと、いくつかのグループは全体で発表する。</p> <p>7 全体で振り返りを行う。</p>	<p>話し合いの軸がずれてしまっているグループの補助をする。</p>
まとめ 10分	<p>8 各クラスに戻り、振り返りを行う。 ワークシートに振り返りを記入し、時間があれば発表する。自分の心情円を変化させ再度発表する。</p>	<p>授業後にワークシートを学級に戻ってから回収</p>

○座席配置（3～4人）



(2) 全校道徳

全校道徳とは、体育館に全校が集まり、輪番で担当者が道徳の授業を行うものである。担当者は年度当初の全校道徳全体計画に沿って担当時期が決められており、学校行事や生徒指導内容、学校全体や各学年の実態などを踏まえて指導内容を決定する。その内容については事前に職員で共有し、全校道徳後に各学級で振り返りを行う。生徒は普段の生活の中で学級や学年以外の先生と関わることが少ないため、全校道徳をきっかけに初めて関わることも多い。教室での授業と異なり生徒一人一人と話すことは難しい面もあるが、生徒はその先生がどんな人で、どういう考えをもつのかを知る機会となり、そのあとの関係を築くきっかけとなっている。そして、それは本校職員が大切にしている「全職員で一人を見る、一人を全職員で見る」という観点からも大切道徳の時間となっている。

担当者	内容項目	内容	主な関連
A先生	A(4) 希望と勇気 克己と強い意志	「挑戦」 ○挑戦する意味とはなんだろうか。 学生時代にサッカー部に所属していた経験をもとに、目標に向かって挑戦し続けることの難しさや大切さを伝えた。それは大人も同じことであり、「リフティング回数自己ベスト」という目標に向けて努力していることを、実際にその場でリフティングを披露しながら伝えた。生徒は先生のリフティングの回数を一緒に数え、楽しそうに参加している様子が見られた。	新学期 体育祭 部活動
B先生	D(22) よりよく生きる 喜び	「誰だってヒーロー」 ○あなたはどんな大人になりたいですか。 先生が赤い衣装を着て北中 RED というヒーローに変身して生徒の関心や興味を引き出し、生徒はこれから先生が何を語るのかワクワクしながら参加している様子が見られた。ヒーローも負けることがあるように誰だって弱さを抱えていること、それを克服しようとする強さが大切なことを伝えた。	キャリア 教育 部活動
C先生	D(19) 生命の尊さ	「命の話」 ○命を大切にするとはいどういうことだろうか。 先生自身が子どもを授かった時の嬉しさや期待、辛くなっていく心身の変化、我が子への大きな愛情や生まれてきてくれたことの奇跡など、母親となって感じた命の尊さを伝えた。生命はかけがえのないものであり、自分の命も、人の命も大切にできる人になってほしいことを伝えた。	保健体育 家庭科 安全教育 性教育
D先生	B(8) 友情 信頼	「友達の存在」 ○本当の友達とはどんな人だろうか。 自身が学生時代に努力したことや苦勞した経験が、大人になっても生きていて、昔も今も側には支えてくれる友達の存在があることを伝えた。友達と励まし合い、高め合い、協力できる平等な関係性を築くには、互いの信頼が必要である。ぶつかることがあっても、傷つけ合うことがないようにと伝えた。	体育祭 旅行行事 合唱祭
E先生	C(12) 社会参画 公共の精神	「備えあれば憂いなし」 ○災害時に北中生ができることは何か。 阪神淡路大震災や東日本大震災、八街市で起きた数年前の大雨災害などの経験を教訓として、何事も日頃から備えておくことの大切さや地域連携の必要性を伝えた。また、災害など緊急事態が起きたとき、人任せにするだけでなく、中学生の自分ができることを探して社会のために動ける人になってほしいことを伝えた。	社会科 安全教育 奉仕活動

F先生	D(20) 自然愛護	「矛盾」 ○人と自然が共に生きるにはどうするべきか。 飛行機への熱い思いを、実際に複数の飛行機模型や戦闘機模型を紹介しながら語った。日本では旅行や仕事で飛行機を利用する人が多いが、国によっては戦闘機として人を殺傷し、自然を破壊していくものとして利用されている悲しさを伝えた。自然なくして人の営みはなく、環境を守っていく必要性を伝えた。	理科 社会科 奉仕活動
G先生	C(13) 勤労	「部屋は乱れていませんか」 ○「環境が人をつくる」とはどういうことだろう。 北中に赴任してきた先生が、校舎に入った時にゴミが1つも落ちていなかったことや教室の床や壁の綺麗な環境から、生徒の優しさや素直さを感じたことを伝えた。自分たちが過ごす環境のきれいさは生活や心のきれいさの表れでもあり、一人一人が役割を果たすことで環境が整うことを伝えた。	奉仕活動 ボランティア
H先生	A(5) 真理の探求 創造	「つながり」 ○どうして勉強しないといけないのだろう。 茶碗蒸しに舞茸、酢豚にパイナップルなど、理科学的視点からみる組み合わせを例として、一見関係なさそうなこともすべてにはつながりがあることを伝えた。中学校の学習を難しく感じることもあると思うが、何事にも好奇心をもち、疑問にこだわることによって力がついていくことを伝えた。	理科 定期テスト
I先生	B(9) 相互理解 寛容	「大切なものは目に見えない」 ○見えない相手の心をどうやって理解できるだろう。 先生自身が学生時代に経験した病気や人間関係の経験をもとに学んだことを伝えた。笑っている人も心の中では泣いているかもしれない、怠けている人も陰では努力しているかもしれない。人にはそれぞれ様々な背景があり、自分や他人を認められる人になってほしいことを伝えた。	教育相談 体育祭
J先生	C(18) 国際理解 国際貢献	「海外との交流」 ○グローバル化とはなんだろう。 自身の民間企業で働いた経験をもとに、海外の人と触れ合い学んだことを伝えた。また、夢に向かって諦めないこと、社会や世界に貢献する人になってほしいことを伝えた。	国際交流 (台湾)
K先生	A(4) 希望と勇気 克己と強い意志	「松田聖子に会いたい」 ○自分が熱くなれるものはなんだろう。 小さいころから憧れていた歌手の松田聖子さんに会うために、勉強や部活必死に取り組んだ経験を伝えた。子どものときの熱い思いや努力は時間が経っても消えることはなく、今でも仕事を頑張ることのできている理由のひとつとであり、途中で諦めず前向きでいることの大切さを伝えた。	部活動
L先生	A(3) 向上心	「最後に向けて」 ○自分の誇りとはなんだろう。 先生自身がバスケットボールをしていて頑張ったことや挫折そうになった経験をもとに、最後まで諦めないことの大切さを伝えた。	部活動
校長先生	A(1) 自主 自律 自由と責任	「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」 ○自分や周りの人のために何ができるだろう。 みんなで分け合うこと、ずるをしないこと、傷つけたら謝ることなど、人として大事にしてほしいことについて書籍を紹介しながら伝えた。中学校3年間で失敗しながら学び、考え、歩みを止めず成長していったほしいという校長先生の思いを生徒たちは集中して聞いていた。	安全教育

### (3) 授業実践

#### ①第2学年 「2秒遅れでつながった襷」 出典「襷の記憶 youtube」

##### 1 主題名 誰に対しても公平に接する C- (12) 遵法精神、公德心

##### 2 主題設定の理由

###### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」の「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」にあたる。

法やきまりを守らなければならないことを中学生は理解している。しかし、法やきまりはなぜ守らなければならないのか、守らなければ自身にどのような影響があるのかについて深く考える機会は少ない。今回の授業では、きまりを守ることと、他人を思いやることとの葛藤を通して、きまりの大切さや思いやりについて、意見を共有しながら自身の考えを深めさせたい。

###### (2) 生徒の実態について

本学級の実態調査は下記の結果である。(29名実施)

○「道徳の授業は好きですか」肯定的評価 86.2% (29名中25名)

○「クラスの中で自分の意見は言いやすいですか」肯定的評価 51.7% (29名中15名)

○「学校の決まりを守っていますか」肯定的評価 82.8% (29名中24名)

アンケート結果を見ると、きまりを守ることが大切であるという意識は十分に高いことがわかる。さらに生徒それぞれが正しく判断し、行動していきたいという思いはしっかりともっていることが日々の生活の様子からうかがえる。しかし、ルールは大切だという意識や正しく行動したいという思いはもちつつも、実際にはその場の雰囲気や流され正しい判断ができない場面や、自分の利己的な感情に負けて行動してしまっている様子も多々見られる。そこで、生徒には法やきまりの根底には、思いやりの心が関わっていることに気付かせるとともに、きまりの意義について考えさせたい。

###### (3) 教材について

本教材は、箱根駅伝の中継の際に繰り上げスタートを役員の立場となって止めるか、止めないかを考え、ルールや決まりを守る意義について考える教材である。駅伝は繰り上げの時間になったらスタートしなくては失格になるが、役員は映像を見ると選手を止めてスタートを2秒間遅らせている。なぜ役員は選手を止めて襷をつなげるようにしているのか、直後に別の走者がきているがその選手をなぜ待たなかったのかを考え、きまりについて思考を重ねていきたい。

本教材を選んだ理由は、生徒たちに学校のルールや決まりの大切さについて考えさせていきたいと考えたからである。その中でも現在、保健体育科で長距離走を行っている点から意見が出しやすく、親しみやすい駅伝の話をしていきたいと考えた。

###### (4) 指導観

導入では、先日の校外学習を振り返り、忘れ物や時間に遅れないことについて確認していく。その上で学校生活の例を取り上げながら時間に対する共通理解を図る。展開では映像教材を見せ、箱根駅伝の繰り上げスタートについて触れ、特に襷をつなぐ時の制限時間について触れていきたい。また、役員の人動きに注目をして、なぜ時間が過ぎているのにも関わらず止めているのか考えさせていきたい。そして、もし自身が役員ならば止めるか・止めないかを決めて発表を通し、たくさんの考えに触れていく。終末では、これまでのルールや決まりを守る意義について考えたことを記入していく。

クラスの中には自分の意見が言いづらい生徒も一定数いるため、生徒全員が意見を共有し、考えの変容の様子が見えるようにロイロノートを利用し、黒板と電子黒板の併用をしながら可視化する。

##### 3 本時の指導

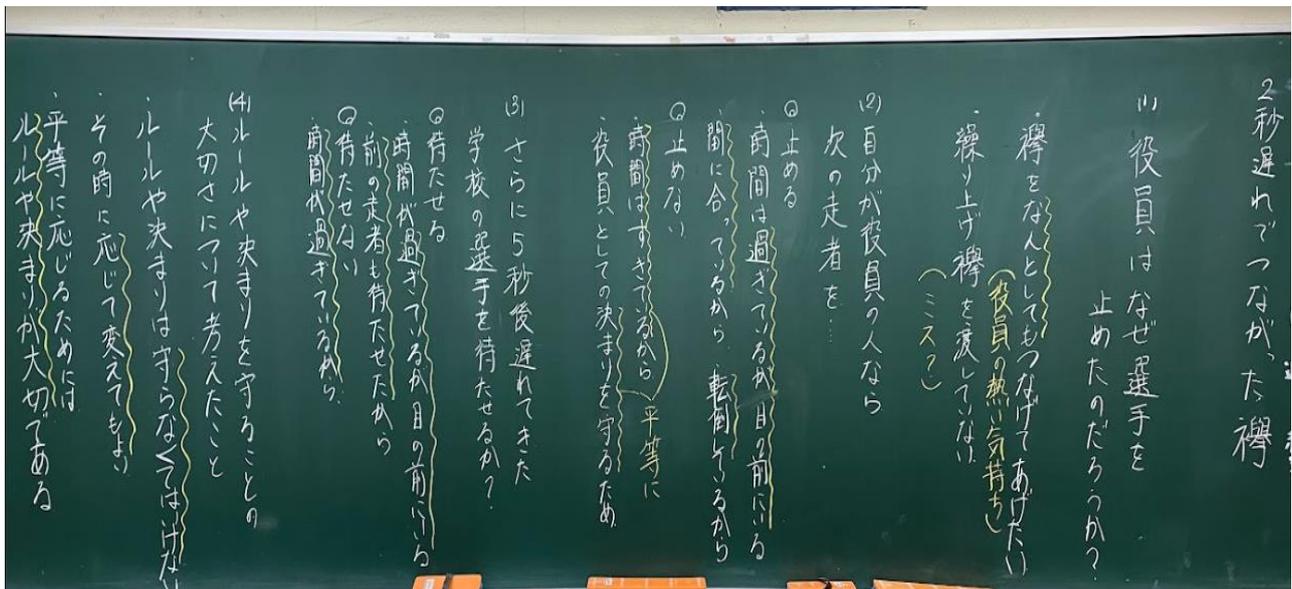
###### (1) ねらい

ルールや決まりの意義について考えることを通して、それらの大切さを再認識させ、遵法精神、公德心を養う。



		げスタートになってしまったことを確認する。  ○自分が役員の人なら、後から来た選手を止めるか、止めないか理由も記入する。 (予想される生徒の反応) [止めない] ・時間が過ぎているから ・スタートが遅れるから [止める] ・時間が過ぎているが、目の前にいるから。 ・前の走者も待たせたから。	いことを全体に共有する。  ・自身の意見が固まったところで、この選手についてはどのように対応するのかを、今までの考えに揺さぶりをかけながら声掛けを行う。 ・場合によると答えた生徒には具体的な場面を聞いて考えを深めていく。	
終末	8分	4 本時の振り返り ・ルールや決まりを守ることの大切さについて考えたことを記入する。 (予想される生徒の反応) ・ルールや決まりは守らなくてはいけないもの。 ・ルールや決まりはそのときに応じて変えてもいい。 ・ルールや決まりを守ることで平等に応じられる。	・時間を多くとり、今後自分がどのようなスタンスで向き合っていくか自分なりに考えさせたい。 ○道徳的価値に関わる問題に対する判断のそのときの心情を様々な視点から考えようとしている。	ワークシート

(3) 板書計画



4 他の教育活動との関連

- ・学校生活におけるルールや決まりについて考えることで、大切さや思いやりについて、意見を共有しながら今後の生活へつなげていきたい。

1 主題名 本当の友情とは B一(8) 友情・信頼

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領の内容項目B「主として人との関わりに関すること」の「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと」にあたる。人間社会は互いに協力することによって望ましい社会生活が営まれ豊かな文化が形成される。そこに生じる友情は、人間として互いの特徴や個性を尊重し、互いに支え、競い合い、高めあう事によって深まるのである。

中学生の時期は、心の成長速度も早く、交友関係や気持ちの変化が起こりやすい時期にもあたる。その影響から、人間関係を壊さないようにするために、相手の話に同調して、自分の気持ちを素直に伝えられずに悩みや葛藤を抱えている生徒も少なくはないと考える。また、SNSなどのやりとりによって、表面的な人間関係の中で、日々の生活を過ごしている生徒もいると考えられる。こうした悩みや葛藤を経験している時期だからこそ、本当の友情とはどういうものなのかをよく考え、心から信頼できる友達を作ることや、お互いに励まし合い、高め合うことができる友達関係を築いていこうとする心情を育てたいと考え本主題を設定した。

(2) 生徒の実態について

○本学級の実態調査(2年3組 計27名)

質問内容	回答結果					
①仲の良い友達はいますか。	はい		94%	いいえ		6%
②自分の気持ちや考えを相手に伝えることは得意ですか。	できる	27%	できない	42%	どちらともいえない	31%
③友達が間違っただけをしながらしているとき注意したことはありますか。	ある		89%	ない		11%
その理由はなんですか。(ある)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達なら正しい事を言った方がいいと思ったから。</li> <li>・周りにも迷惑をかけてしまっていたから。</li> <li>・間違っただけに進んでほしくないと思ったから。</li> <li>・その友達が嫌われてしまうのが嫌だったから。</li> </ul>					
その理由はなんですか。(ない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気まづくなってしまうのが嫌だから。</li> <li>・自分も先生に怒られてしまう可能性があるから。</li> </ul>					
④友達に言いたいことが言えずに、我慢した経験はありますか。	ある		94%	ない		6%
⑤なぜ、我慢してしまったのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の言っていることも分かるし勇気が出なかった。</li> <li>・今の関係が悪くなると思ったから。</li> <li>・自分の意見が絶対に正しいという保証がなかったから。</li> <li>・自分の考えをうまく伝えられなそうだから。</li> </ul>					
⑥友達とはどんな人ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助け合えて、お互いを思いやれる人</li> <li>・一緒にいて楽しい人、気が合う、協力する人</li> <li>・優しく接してくれている人</li> <li>・仲の良い人</li> </ul>					
⑦親友とはどんな人ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何でも本音で話し合える人</li> <li>・一緒にいると安心する人</li> <li>・互いに心を許し合っている人</li> <li>・相談事をできる人</li> </ul>					

本学級は男子13名、女子16名の計29名であり、男女間の意見の違いが大きく起こることはほとんどない。また、一小一中で過ごしてきた小学校時代も背景にあることから男女間の会話も学校生活で多く見られる。しかし、心の成長が著しい2学年という時期もあってか、交友関係に悩みを抱えている生徒も少なくない。近くに友達がいないと不安になったり、予想と異なる反応が返ってきたりすることに耐性がついておらず悩んでしまう。アンケート②や④の結果から見ても、自分の本当の気持ちを伝えられず、友達の考えに同調してしまうことや正しいことを正しいと言えないことで、友達関係に悩む生徒が多いことがわかる。これから高校受験に向かっていく事もあり、自分の気持ちを整理して相手に伝えるだけではなく、他人の気持ちも理解しながら関わっていくことはとても大切だと考える。そのために、学校生活の中で交友関係を築き多くの経験を積み重ねることが大切であると感じている。今回の教材を通して、「本当の友達」とはどのような存在なのかを考えさせるとともに、自分自身についても振り返らせたい。

### (3) 教材について

本教材は、スマートフォンを手に入れた主人公の昭夫が友達の達也と連絡を取り合ううちに、束縛されていると感じ、自分の本当の気持ちを言えず流されていく様子が描かれている。また、友達からの連絡が気になり自分の勉強に集中できず、遊びに誘われたことに対して自分の気持ちを伝えられない場面もある。スマートフォンを初めて手にすることが多い生徒にとって、昭夫と達也の関係を通して、本当の友達とは何かを考えるのに身近な教材だといえる。お互いに本当の気持ちを言い合える関係性の重要性について考えとともに、信頼関係を築いていく難しさと大切さを考えさせたい。

### (4) 指導観

学校生活の中で多くの時間を共に過ごす友達は、身近な存在だからこそ、その関係性について改めて考えることは少ないように感じる。自分にとって相手はどのような存在なのか、相手にとって自分はどのような存在か、自分自身の言動を振り返りながら考える機会としたい。

そのためにはまず、導入部分において事前に回答したアンケート結果を提示し、自分の考えや価値観が周りどどのように異なるかを認識させる。次に、内容を図やイラストで視覚的に提示することでより深く理解させ、発問に対して自分の考えをしっかりと持つことにつなげたい。主人公の気持ちを自分に置き換えて考えさせることで、生徒はこれまでの経験を踏まえながら自分事として捉えることができるとともに、今後につなげることができると考えた。そして、小グループにおいて意見交換を行った上で、ICTを活用して学級全体で意見を交換することで、自分の見方や考え方を広げていくことができる。主人公を通して、学校生活の中での友達関係の在り方を見直し、悩みや葛藤を経験しながらも、よりよく深い人間関係を築いていこうとする態度へとつなげていきたい。

## 3 本時の指導

### (1) ねらい

本当の友達とはどのような存在かを考え、よりよい人間関係を築こうとする心情を育てる。

### (2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・予想される児童生徒の反応	指導・支援 ○評価の視点	資料
導入	5	1 道徳的価値に対する方向付け ・アンケートの結果を提示して自分の考えと他人の考えの共通点や違いを見つける。 ・「仲の良い友達はいますか」のグラフと「友達に言いたいことを言えずに、我慢した経験はありますか」のグラフを提示し、共有させる。	・アンケートの結果をグラフやスライドにまとめて見やすいようにしておく。 ・隣同士で自分の体験談を友達と共有する。	アンケート結果
展開	7	2 教材の提示 (朝読書の時間で題材を読ませておく) ・二つの場面の内容を把握し、そのときの主人公の気持ちを考える。 ・スライドを使って、内容を簡潔に説明す	・スライドでは、状況を把握しやすいようにイラストや場面絵を用いて示す。 ・登場人物や場面を把握するために、黒板にも示しておく。	ワークシート スライド

	<p>5</p> <p>個人 6 ↓ グループ 8 ↓ 全体 9</p>	<p>る。</p> <p>3 教材「本当の友達って？」についての話し合い○昭夫はなぜ、いつもスマホを気にして生活するようになっていったのだろうか。 (予想される生徒の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・達也からの返事をすぐに返さないといけな い気持ちになっていたから。</li> <li>・達也に悪いと思ったから。</li> <li>・連絡をとらないと、もうゲームをしても えなくなると思ったから。</li> </ul> <p>◎教科書 P136 の 7 行目～「自分であれば」 どのような展開になるのかを考えさせる。 (予想される生徒の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嘘をついてしまってごめん (正直に謝る)</li> <li>・ちょっと忙しくてさ、、 (はぐらかす)</li> </ul> <p>その後グループを作り、自分の意見を伝え合 う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問は、主人公の昭夫と達也 の関係に注目させて、考えさせ る。</li> <li>・スマホを手に入れた主人公に どのような気持ちの変化があっ たかに気づかせる。</li> <li>・自分の考えがまとまらない生 徒には、机間指導しながら声を かけ、主人公になったつもりで 考えさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の立場を自分に置き換 えたら、どのような言動になる かを振り返らせる。</li> <li>・グループ活動では、一人一人 が話せる雰囲気を作り、班長を 中心に進めさせる。(4 人班)</li> </ul>	<p>スプレッ ドシート</p>
<p>終末</p>	<p>10</p>	<p>4 本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当の友達とは、どんな存在かを考えさせ 振り返りを行わせる。 (予想される生徒の反応)</li> <li>・自分の事しか考えていない発言をしてしま う時がある。</li> <li>・周りを見て意見することや我慢することが できている。</li> <li>・自己評価を行う。</li> <li>・本時の感想を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の友達との関係を振り返 り、これからの行動についても よく考えさせる。</li> </ul> <p>○今の友達関係にある人に対し ての自分の行動を振り返り、こ れからすべき行動について考え ることができる。</p>	<p>ワークシ ート</p>

### (3) 板書計画

<p>○昭夫はなぜスマホを気にして生活す るようになったのだろうか。</p> <p>○自分であればどうするのかを考え てみよう。</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 50px; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 50px;"></div>	<p>【場面①】</p> <p>本当の友達って</p> <p>【場面②】</p>
------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------

### 4 他の教育活動との関連

- ・特別活動における委員会などの生徒会活動において、主体的に自分の考えを伝え合い、生徒全員でよりよい学校を作ろうとする姿勢につなげる。また、体育祭や合唱祭などの学校行事において、他と協力しながら一つのものを作り上げる楽しさと達成感を感じさせる。
- ・総合的な学習の時間における情報モラル教育では、スマートフォンやSNSの使い方を確認する。
- ・総合的な学習の時間におけるキャリア教育では、将来の対人関係育成能力の重要性について伝える。

③第3学年 「二通の手紙」 出典「とびだそう未来へ 中学道徳3 教育出版」

1 主題名 法やきまりの意義 C4- (1) 遵法精神 公德心

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学校学習指導要領において内容項目C「主として集団や社会との関わりに関する事」の「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に務めること」に該当する。中学校の発達段階では、法やきまりの意義を理解することができるようになる反面、時には反発したり、自分の権利は主張するものの、自分の果たさなければならない義務をおざなりにしたりする傾向も見られる。まずは、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについて改めて考えさせる。また、自他の権利を大切にし、義務を果たすことで、互いの意思が尊重され、結果として規律ある安定した社会が実現することを理解させたい。そして、自分たちが社会の構成員の一員であることを認識し、「私」を大切にすることと「公」を大切にすることの関係について考え、日々の実践に結び付けていきたい。

(2) 生徒の実態について

実態調査 (3年1組 合計29名)

質問内容	はい	どちらかというとはい	どちらかというとい	いいえ
①社会や学校にきまりは必要だと思うか。	20名	7名	1名	1名
②普段の生活できまりを守っているか。	15名	13名	0名	1名
③正しい判断をし、行動に移しているか。	10名	17名	2名	0名
④きまりは何のためにあると思うか。 ・周りに迷惑がかかるから。 ・なんでもありになってしまうから。 ・みんなが自由にするとまとまりがなくなり、大変なことになるから。 ・無法地帯になって、努力した人が報われなくなるから。 ・いじめが増えるから。 ・争いを生まないようにするため。				

調査結果から、社会や学校生活など、集団生活をする上できまりが必要だと考え、守ろうとする生徒は多くいることがわかる。しかし、正しい判断を行い、行動に移すことができている生徒は半数以下という結果であった。それは、きまりを守らなくてはいけないという意識はあるものの、何のためにあるのか、なぜ守らなければいけないのかを深く考える機会が少ないことが一因だと考える。生徒はこれまでの授業や学級活動、学校行事や部活動を通して、集団生活においてきまりを守る大切さを学んできた。本授業を通じて、きまりの意義について改めて考え、主体的に正しい行動をしようとする意欲と態度を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、動物園で入場係として働く元さんが、幼い姉弟の願いを叶えてあげたいという気持ちから、保護者同伴が求められる子どもたちを入園終了時刻が過ぎているにもかかわらず入園させ、結果として懲戒処分を受ける内容である。二人は一時園内で行方不明となり騒動になるが、最終的には無事保護され、後日母親からは感謝の手紙が届く。元さんの情け深く人間味あふれる行動は、心情的には十分理解できるものの、一方で周囲の人に迷惑をかけ、ひとつ間違えば大きな事故につながる可能性があった。母親からの「感謝の手紙」と動物園からの「懲戒処分通

「告書」の二通の手紙を通して、法やきまりの意義について考えるとともに、それらを守ることの大切さを深く考えさせたい。

#### (4) 指導観

本教材における登場人物への自我関与を促すために、主題に関わる事前アンケートを実施し、導入でその結果を確かめる。生徒の現在の道徳的価値観を認識しつつ、本主題においてねらいとする道徳的価値観を確認したい。次に、本文の内容を場面絵を用いながら理解させる。中心発問において元さんや動物園の職員の立場になって考える際には、生徒がそれぞれのネームプレートを黒板に貼って自分の考えを示し、その理由や根拠を発表する。他者の意見を聞き、きまりに関する様々な考えを比較する中で、自分の考えを広げたり、深めたりできるようにしたい。そして、本時の学習を振り返り、道徳的価値の理解を今後につなげられるようにする。生徒一人ひとりが自分の考えをもてるように、書く活動は中心発問に対して考える場面と振り返りの場面の2回に限る。

### 3 本時の指導

#### (1) ねらい

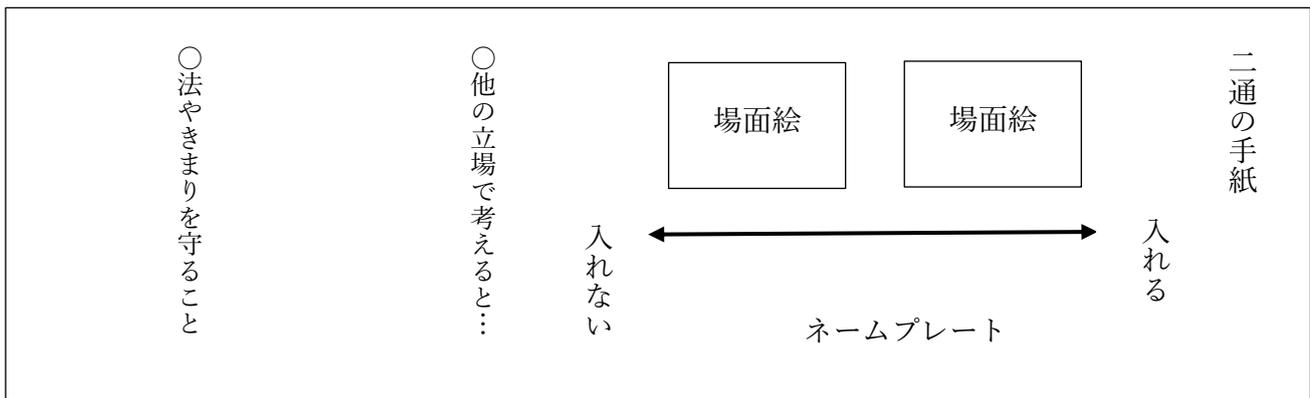
規律ある安定した社会の実現を目指し、法やきまりの意義について考え、主体的に守ろうとする意欲と態度を育てる。

#### (2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・予想される生徒の反応	指導・支援 ○評価の視点	資料
導入	5	1 道徳的価値に対する方向付け ・アンケート結果を提示し、自身の現在の道徳的価値観を認識する。 ・学習課題を知る。	・学習内容に興味関心をもたせる。 ・生徒に身近なものを取り上げることで、本時のねらいに意識を向けられるようにする。	モニター
展開	40	2 教材を読んで考えを深める。 ・範読を聞き、内容を理解する。  ○あなたは元さんの判断をどう思うか。 ・元さんの心情を考える。 ・黒板に自分の考えをネームプレートで示し、周りとは意見交換をする。  ○元さんの行動をちがう立場になって考えるとどうだろう。 ・個人で考えたあと、小グループになり、それぞれの視点をふまえた考えを交流する。 ・小グループで出した意見を発表する。 ◎なぜ、法やきまりは守らなければいけないのだろう。	・内容の中心となる部分や、気になった部分に線を引きながら読むよう指示する。  ・元さんの心情に注目させ、共感させる。 ・元さん宛に届いた二通の手紙をそれぞれ提示する。  ・「動物園」「姉弟」「母親」「他の客」「元さん」という5つの視点から、元さんの行動の問題点を多面的かつ多角的に考えられるようにする。 ○自分の考えを発表し、他者と意見を交流することで考えを深めることができたか。 ・元さんの行動は、思いやりを優先させたわけではないことに気付かせる。	教科書  場面絵 ワークシート

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・法やきまりは、単に「守らなければならないもの」という捉え方ではなく、その背後にあるものを考えさせる。</li> <li>・元さんの行動や動物園から下された処分から、自分自身の生活にも重なる部分があるかを考えさせる。</li> </ul>	
結末	5	<p>3 学習のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して学んだこと、感じたこと、新たに気付いたことなどをワークシートに記入する。</li> <li>・教師の説話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体や小グループでの意見交流を活かして、きまりやルール of 意義について考えたことを書かせる。</li> <li>○法やきまりについての意義を理解して、集団生活の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を培うことができたか。</li> <li>・「ルールやきまりを守ること」の大切さや意義について改めて考えることで、日々の生活にも活かせることを示す。</li> </ul>	ワークシート

### (3) 板書計画



## 4 他の教育活動との関連

### 道徳教育は

国語科	思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにすることは、道徳的心情や道徳的实践力を養う基本となる。
社会科	公共の福祉について学び、一人一人の人権と社会全体の秩序を守る権利と義務があることを理解できるようになる。
特別活動	道徳の時間で学んだ道徳的価値観を実践する場となり、子どもたちが協調性や共感性といった社会性を育む機会となる。
学校行事	学級や学年、異学年との交流の場でもあり、集団で行動する上でルールやマナーの重要性を理解し、実践する機会となる。

## 6. 研究のまとめ

### (1) 生徒の変容

研究における生徒の変容を調査した結果は以下の通りであった。全体的に「どちらかというといいえ」「いいえ」という回答数が減り、「はい」「どちらかというとはい」という回答数が増えていることから、道徳の時間を肯定的に捉えている生徒が増加したことがわかる。一方で、設問の中で唯一、⑤自分にはよいところがあると思うかという問いに対して「はい」という回答数が減っている。また、⑥や⑦の家族や友達など周囲の人に自分の思いを伝えることができているかという問いに対しては「はい」という回答の増加率が比較的小さいのは、中学生という思春期に不安や悩みを抱え、それを周囲の人へ伝えることが難しい時期であることの表れであるといえるだろう。

実態調査（±は昨年度比） 令和7年7月 対象：3年生（計81名）	はい	どちらかというとはい	どちらかというといいえ	いいえ
①道徳の時間は好きですか。	32名	43名	6名	0名
	+6	-2	-6	-1
②道徳の時間はためになると思えますか。	58名	21名	1名	1名
	+2	-4	+1	-1
③道徳の時間に自分の考えをもつことができますか。	50名	30名	1名	0名
	+7	-5	+1	+1
④道徳の時間に友達の考えを聞いて、「はっ」としたり「なるほど」と思ったりしたことがありますか。	50名	26名	4名	1名
	+1	±0	±0	-1
⑤自分にはよいところがあると思えますか。	25名	41名	13名	2名
	-2	+3	-2	+1
⑥家族に自分の思いを伝えることができますか。	27名	39名	12名	3名
	±0	+4	-3	-1
⑦友達に自分の思いを伝えることができますか。	36名	36名	9名	0名
	+1	+1	-2	±0
⑧道徳の時間に学習したことを生活の中で行動に移すことができますか。	30名	41名	5名	5名
	+5	+2	-9	+2

### (2) 成果

- 調査結果（1）から、「道徳の時間が好き」「道徳の時間はためになる」という回答数が増え、道徳の時間を肯定的に捉えることができている生徒が多いことがわかった。また、自分の考えをもつことができている生徒や、学習したことを生活の中で行動に移すことができている生徒も増えている。それは、自分はどのように考えるのか、自分ならどうするかという問いを通して自分自身と向き合い、実生活でよりよく生きようと行動できた場面があったことを示している。教室での授業や机上の考えにとどまることなく、道徳的判断が必要な場面で、生徒が自分の力で少しでもよりよい判断と行動ができたのならば、それは大きな成果といえるだろう。
- 道徳の授業を要としながら、全校道徳や学年道徳などの道徳的学習の時間を教育活動全体で多く設定しすることで、生徒はこれまでや現在の自分を振り返り、これからの自分の在り方について考える機会が増えた。また、他クラスや他学年と意見を交換することで、他者との違いや新たな考え方を知り、さらに自己の考えを深めることができた。
- 道徳の授業の中で2～4人の小グループでの話し合い活動を行い、自分の考えを伝えたり、異なる考え方を聞いて自己の考えを深めたりすることができた。また、全体での話し合いではグループ内での話題などを伝え合うことを通して、多面的・多角的な視点から他者に新たな気づきを与え、考えることができた。

- ICTの活用により、短時間で他者と意見を交換することができ、共感したり理解したり、互いに考えを広げることができる学び合いとなっていた。また、生徒一人一人の考え方やその変容を色分けグラフを用いて視覚的に表すことで、指導者は生徒の意見を拾って広げやすく、生徒自身は考えを深めることができた。

### (3) 課題

- 調査結果(1)から、道徳に関する設問についても「はい」「どちらかというとはい」という肯定的な回答が多いが、その二つのうち「どちらかというとはい」と回答した生徒が多いのは前回の調査結果から大きく変わっていない。「どちらかという」という曖昧さは「はい」「どちらかというといいえ」のどちらに寄るか数値の上では不明だが、設問内容について肯定すること迷ったり、否定的な考えを持ったりすることにつながった場面や経験が少なからず生徒自身にあったことが推測される。それは決して悪いことではないが、その経験を踏まえて、次に同じことがあった場合によりよい判断と行動ができるような学習を道徳の時間や学校教育活動全体を通じてできれば、「はい」という肯定的な回答が増えるだろう。
- 話し合い活動を充実させるためには指導者が話し合う論点を明確にして指示を出したり、目的に応じたグループの編成や机の形態などを工夫したりする必要がある。また、生徒たちが話し合いを積極的に行うためには、他教科や特別活動などで話し合いの機会を多く設定するとともに、意見を伝え合いやすく、他者を受け入れことのできる雰囲気作りなど、普段の学級経営や学習指導が基盤として重要である。
- ICTを活用して生徒同士が意見を交換する活動で終わるのではなく、その後の話し合いにどのように生かすのか、ねらいとする道徳的価値にどう迫るのかが重要である。ICTの活用が目的とならないよう、発達の段階に応じた活用場面、方法、展開、話し合いの目的を明確にする必要がある。

# 資料編

○学年道徳の様子



リモートでの授業



リモートの際に各学級の補助に入る先生



クロームで意見交換をする様子



3学級を混ぜた班編成

学年道徳  
【今日のキーワード】  
肯定でも否定でもない  
なんで？  
教えて？



話し合いのヒントとなるキーワード



クロームで自分の考えを視覚化



### 1 5 道徳×防災「命を守る 避難所での出来事」

3組 番 名前

- 今日の流れ
- ①各クラスで本文を読む。今日の話し合いキーワードを確認する。
  - ②自分のグループの教室に移動する。E
  - ③グループで意見を交換する。(キーワードを積極的に使おう！)
  - ④全体で意見を交換する。
  - ⑤各クラスに戻って振り返りを行う。

なんで?  
教えて!

(1) 父の行為は…

許される

許されない

理由

避難所で周りの人に助けをほしいとお父さんは頼んでいたけれどお父さんはそれぞれよゆうがなくて、そんな状況だ、たら息子の命のためにはやむを得ないと思う。自分のお父さんもそうすると思う。

(2) 問いかけによる話し合いを通して、父の行為や周囲の人たちの対応について考えよう。

①「許される側」の人たちに問いかけよう。

②「許されない側」の人たちに問いかけよう。

(3) 話し合いを受けて、自分の考えを整理しよう。

自分は息子のためを考えていたけれど、相手も同じ状況だった。たらというのは考えていなかった。車を盗むことは犯罪で、でも命はより大切なものはないと思う。でも自信をもって「許される!」とは言えなかったけど、父の行為を許せる人(大人)になりたいと思った。

(4) 最後の場面で父は何を思っていたのだろう。

お腹が回復した息子を見て、すごくすごく安心した。そのあとに自分がしてしまったことを反省しているし、謝りに行くように考えている。入としてはよくないことをしてしまったけれど、父としてはすべきことだった、でもそれは…とずっと考えていると思った。

・今日の授業で考えたこと、感じたことを書きましょう。

クラスでは違う意見の人が多かったけど、1組の人の意見は同じで考え方も似ていた。近いうちに大きい地震がきて同じ状況になりかねないから、これから考えないといけないと思った。

自分の命よりも大切な息子を守るためなら、自分も同じようなことをしちゃうかもな、と思いました。でも、ぬすむことはいけないことだから、もう少し工夫した方がよか、たんじゃなかなって思いました。

自分の立場になったら、なにと考えたら新しい意見も出てきて考えにくいと思いました。もし、避難所でこのようなことが起こったら自分は簡単に許せないと思います。

命に関する話だったから、判断するのが難しかったです。でも、さんきゅうの事態だったとしてもひとりひとりがルールを守って生活しないとイケないかなと思いました。

命の重さを再認識した。父は車を盗むことは犯罪だけれど、それをしないといけないくらい息子の命は大切に重かったのだと思った。赤の他人だとしても災害のときは人の気持ちに寄り添っていかないといいと思った。

もし自分だったらとか、相手の事情とかを考えると自分の考えが変わっていきちゃうな、と思いました。命にたいする価値感がいかに分かりました。

○学年道德の全体感想

・学年道德はどう感じましたか？

ふた人とはい違う話し合いのしかたで、いろいろな意見を聞けた。

他のクラスで関わりが少ないうちの意見や考え方も聞けたので、交流もできてよかった。

違うクラスの人と話せて新鮮だった。いろいろな意見があって面白かったし、自分の意見を糸内得てくれたのは嬉しかった。今回は4人だけで話し合ったけど、今度は混ったクラス全員で話してみたいと思った。

いつもはクラスの人としか意見交換してなかったから、他クラスの人の意見が聞けてよかったなと思いました。色々な意見があっておもしろかったし、そんな考えもあるんだなと思って関心しました。

同じクラスの人ではなくあまり関わりのない他クラスの人達と意見を共有でき、自分にはない意見を知れて新鮮でした。また機会があればもっと多く人数で話し合いしてみたいです。

普段は同じクラスの人としか話せないし、クラスがえをする機会ももうないから違うクラスの人と話せてとても新鮮でした。

他クラスの子の意見まで聞くことができるのはとても貴重だと思いました。そのおかげで、自分ではあまり出せない意見などをより深く考えることができてよかったです。

○全校道徳の様子



ヒーローに変身した B 先生



出産を控えていた C 先生



自身の被災経験を伝える E 先生



飛行機模型を紹介する F 先生



発表する生徒



他学年との話し合い

○全校道徳での授業者の資料例

C先生の資料

# 命の話

母親の体の変化→赤ちゃん誕生→その後

## これは何のマーク？

## 妊娠したかも・・・

## 母子手帳

産婦人科で妊娠確認後、市役所でもらう

## 妊娠期間は10ヵ月

## 妊娠中に大変だったこと トップ10

- 1 つわり
- 2 寝るときの体勢
- 3 体重管理

## エコー写真

## 赤ちゃんが誕生したら・・・

【母親】

**自然分娩**：5日間入院（出産当日0日）  
調乳＆授乳指導・沐浴指導・おむつ替え指導

**帝王切開**：7日間入院（手術当日0日）  
歩行訓練ー調乳＆授乳指導・沐浴指導・おむつ替え指導

## 生まれてきてくれて ありがとう

H先生の資料

4月 全校道徳

## 「つながり」

～理科ってこんなに身近！～

理科は好きですか・・・？

暗記科目？

難しい単語 多くない？

なんの役に立つ？

そもそもそんなに 興味ないな・・・

突然ですが・・・

茶碗蒸しの具を思い浮かべてみましょう

茶碗蒸しに・・・

マイタケ

実は・・・入れてはいけない！

なぜなのか？

生き物のからだは **タンパク質** でできている

タンパク質は熱すると固まったり、元の形が保てなくなる

加熱

やけどが危ない理由も同じ

おいしい「酢豚にパイナップル」も  
パイナップルの持つ酵素が肉を柔らかくできるから

**料理も  
理科!!!!**

誰でも一度は考えること

どうして勉強しなくてはいけないのだろうか？

あなたが好きなことも実は色々つながりがある

スポーツ  
人体のこと  
栄養のこと

ファッション  
染色のこと  
材質のこと

ゲーム  
コンピューターのこと  
通信のこと

音楽  
機材のこと  
感じ方のこと

最後に・・・

茶碗蒸しにマイタケ、酢豚にパイナップル...  
いろいろなことが理科とつながっています。

まずは色々なことに興味を持って学ぼう！  
「どうして勉強しなくてはいけないのか」  
自分だけの答えをぜひ探してみてください。

ご静聴ありがとうございました



○授業実践

・第2学年「2秒遅れでつながった襷」

<p>2秒遅れでつながった襷</p> 	<p>箱根駅伝とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京～箱根間（約100km）の往復を学校対抗戦で競い合う。</li> <li>・各校出場選手10名（往路5人、復路5名）</li> </ul> 	<p>繰り上げスタートの襷とは？</p> <p>運営が用意 学校の予備</p> 
 <p>①役員はなぜ選手を止めたのか？</p> 	<p>あなたが役員なら スタートを止める？ 止めない？</p>  	<p>次に来た学校も止める？ 止めない？</p>  <p>自分が役員の人だったらどうする？</p> 

・第2学年「本当の友達って」



・第3学年「二通の手紙」ワークシート

矢印は考えの変化

<p>賛成 → どちらともいえない 反対</p> <p>(理由) 小学生の女の子や3、4歳の男の子の気持ちをないかいるに器向けにはいいから。</p>	
<p>賛成 どちらともいえない 反対</p> <p>(理由) 弟の言は自分の前に以前来たなら、まよを5人と考えた。入った。もし入った人として、責任を持って弟君に着いてあげた。</p>	
<p>賛成 どちらともいえない → 反対</p> <p>(理由) ...も柵の外から入っていて、どうしても入りたがるにしたら、私たちが入らせてしまうかも、... ...でも、小さな子どもだけだと危険なことあるからいいから、ルールがある...</p>	

